

子どもたちの理化学離れを食い止めるため 授業で使える分析装置を開発



株式会社 ユニフローズ
代表取締役

もりかわ ひでゆき
森川 秀行 氏

宮崎県出身。日本電子株式会社を経て、1975年にサヌキ工業株式会社を設立。1985年株式会社ユニフローズを設立。数々の開発や取り組みにより受賞歴多数。

理化学やものづくりの
楽しさを知ってもらいたい

液体を扱う理科学分析装置や医用分析装置などを開発・製造・販売する株式会社ユニフローズ。特に、小型化・軽量化・高性能化に注力し、省資源・廃棄物削減など環境負荷の軽減にも努めている。同社は、全売上の約8割を医用分析装置が占めるなか、教育用の小型分析装置

「e-HPLCことり」を開発した。その理由を森川秀行社長は次のように語る。

「現在、国を挙げてIT技術の推進に走っており、理化学に興味を持つ学生が少なくなっています。今まで日本を支えてきたものづくりが置き去りにされているのです。しかしものをつくる人材がないなくなり、使う人材ばかりになると、国力が低下するのではないか」という。

当社においても、技術者を雇おうにも学生がいないという問題もあります。そこで子どもたちに、自分が飲んだり食べたりしているものに興味を持つてもらおうと開発に着手しました。そこをきっかけに理化学分野に入ってくる人材を増やしたいと思っています」

子どもたちの理化学離れを食い止め
るべく教育分野に進出したのだといふ。

教育分野の製品で アジア諸国へ進出したい

「e-HPLCことり」は簡単に操作でき5分程度で分析が可能な液体クロマトグラフ（物質を分離させる装置）だ。A4用紙に3台乗せられる超小型サイズで、

電源を入れるとすぐに立ち上がるのが特徴。小学校の授業はもちろん、大学や研究所でのプレ分析や工場・作業現場で品質管理の一環として簡易分析をするときなどに活用できる。これまで開発した医用製品と違い、子どもたちも使用することから、「使うことがおもしろい」と思ってもらえるよう工夫したのだという。

「安全に使用できることは当然ですが、そのほかにも、『装置の内部まで見える』『50分の授業の中で最低でも5件は分析できるよう、使った結果がすぐわかる』などに重点を置き、そのため不可欠な機能は何かを追求し、できるだけ簡素化することを目指しました」

同社は地域の大学や自治体、民間企業などと連携した科学系イベントの開催・参加にも積極的で、自社の工場見学体験会を開くこともある。そこで実際に製品を使つてもらい、確かな手応えを感じて

いる。「e-HPLCことり」で、教育に熱心なアジア諸国への進出も考えているのだそうだ。

第1・3・7回多摩ブルー賞 優秀賞受賞

株式会社 ユニフローズ
<http://www.uniflows.co.jp>

東京都あきる野市山田405-3
TEL:042-533-0508 FAX:042-533-0510
E-mail:tokyo@uniflows.co.jp
●創業:1985年2月 ●従業員数:45名(2021年2月末現在)



社長のひとこと

「世の中にはできない」ではなく、なければ自分でつくる。こんなものを欲しい人がいるのではないか?そう思ったらまず試作品をつくり、現物を見たり、触ったりしながら、需要を掘り起こす。これが私のものづくりです。